



1.あなたが学ボラを続けている理由は何ですか？

関わってくれる人が好きだから！
そして常に刺激的な場所だから！
これから留学する派遣生、日本にドキドキしながら頑張ろうと留学してきた留学生、国際交流をしてみたい中高生、一緒にイベントを作り上げる学ボラの仲間、と世代も性別も肌の色も話す言葉もバラバラな人と関わるのが学ボラ。だからこそ関わる人たちの愛や笑顔に触れることが何よりも楽しくて幸せなことだと感じ続けてきました。オリエンテーションをするたびに未来に向かって努力する高校生に刺激をもらい、キャンプに参加すると頑張ってコミュニケーションを取ろうとする姿に感動をもらいます。
楽しいことだけじゃない学ボラだけど、だからこそ少しでも良いものを作ろうと妥協しない仲間からたくさんのことを学べるのが学生ボランティア！
その魅力に魅せられて続けてきました。

2.学ボラを通して学んだことはなんですか？

想像する力。
学生ボランティアをしていると誰かを想像して活動する機会がたくさんあります。
例えばオリエンテーションにくる派遣生。
派遣生に何が伝えられるか、どんな言葉を選んだら伝わるか、楽しみながら過ごすにはどんな工夫ができるか、など考える機会は多々。そんな中で身につけた想像する力は普段の生活でも相手を想像して気遣いができたり、かける言葉を考えたりと人間として大きな成長となっています。



3.新入生に一言！

学ボラってなに？まだ大学の生活もわからないし不安、という人もたくさんいると思います。
学生ボランティアとしてはもちろん多岐にわたる大学の学生がいるからこそ大学4年間のいろんな話が聞けるのも学ボラの魅力の一つ。まだ先のことはわからないからこそ多くの人と関われる機会に飛び込んでみてください。
AFSではよく
Try at least three times
という言葉を使います。
3回は挑戦してみる。
大学生活はあっという間。気になっているならその挑戦の1回目を早速はじめてみてください。
東京学生部でお待ちしています！

AFS日本協会 東京学生部

学ボラ通信 2020年版 学ボラインタビュー編
発行：2020年6月



学生ボランティアとして実際に活動する学生の生の声をお届けします。今回のインタビュー相手は、**椿原萌(つばきはら もえ)**さんです！
様々な部で活躍する彼女は一体何を思い、何を感じて学ボラを続けているのでしょうか？彼女に直撃してみました！



1.あなたが学ボラ生活で1番嬉しかったこと、 思い出はなんですか？

1つはなかなか選べないけれど、間違いなく言えるのは、
悲しいことがあったら親身になって話を聞いてくれて、
嬉しいことがあったら一緒に笑ってくれる人に出会えたことかな！
みんな全力で考えるからこそ悩むし、壁にぶつかったりすることもあるけれど
それを一緒に乗り越えられる仲間が居るから
学生ボランティアは辞められない止まらない！笑
たくさん悩んで考えたものが、自分の伝えたい想いが、
プログラムの参加生に届く瞬間は形容できない素晴らしさがある！
一緒に頑張れる、頑張りたいって思える仲間と出会えたことが
学生ボランティアをやって嬉しかったことかな！



AFS 日本協会 東京学生部

学ボラ通信 2020年版 学ボラインタビュー編
発行：2020年6月

学生ボランティアとして実際に活動する学生の生の声をお届けします。
今回のインタビュー相手は、小田 大和(おだ やまと)さんです！
AFSの集まりには必ずと言っていいほど現れる彼は暇なのか！？
いやいや彼だってAFS以外にも様々な活動をしています。
AFS以外にも顔を持つその実態とは・・・？ 彼に直撃しました！！

2.学ボラと他のこと、 両立はできますか？

僕は大学で教育系のボランティアサークル
の代表をやった！両立って大変そう…
みたいなイメージがあるかもしれないけれど、
東京学生部には1年間絶え間なく
部会や親睦、イベントがあるので
自分のペースでやれるよー！



僕は日中は大学でサークルのことを、
放課後はAFSのことをやったりして、
上手い具合に両立できたかなって思
う！笑 両立することで、多くの人に
出会えたり、計画立てて動く力が付く
から、みんなも色々なことに
チャレンジしてみよう！

3.新入生に一言！

まずはAFSの学生ボランティアに
興味を持ってくれて
本当にありがとう！！
早くみんなに会いたいなあって書き
ながらワクワクドキドキしてます。笑
たった一度きりの大学生活、
生かすも殺すもあなた次第！
AFSの学生ボランティアで、
自分の世界をちょっとだけ
変えてみませんか？
一緒に学生ボランティアを
やれる日を楽しみにしてるね！

1.あなたが思う学ボラの魅力はなんですか？

本気でやった後に涙を流したことがありますか？

学生ボランティアにはこんな経験のあるアツイ人たちが集まっています。ただ楽しいだけで終わらず、その先に自己成長や人と共に一つのことを作り上げる喜びなど様々なものが待っているのが学生ボランティアです。

今までAFSと何かしら関わりのある人やそうでない人がいるように、十人十色の生活がこれまであったと思います。今までどんな経験をしていようと、誰かの為に本気で何かをやってみようという思いがあればきっと活躍の場所が学生ボランティアにあるはず。私も活動を始めてからその魅力に気が付き、今まで続けています。始める前は誰かの為に尽くせる人間じゃないなんて思っていたのですが、暫く続けたことで自分の経験が活かせる事、人と向き合う事の楽しさを感じるようになりました。涙を流すことなんか恥ずかしいと思っていましたが、本気でやった後はいろんな感情が混ざって自然と涙を流していたこともあり。きっとあなたも本気になれる事の素晴らしさに気が付けるはずです。



2.あなたの学ボラ生活での挫折と立ち直り方はありますか？

学生ボランティアで心が折れてしまうような悲しいことは今までありませんでした。

ただ、壁というか悩むことはたくさんありました。自分ができないことで蹴いたり、やってきたことが水の泡になりそうになったり、悩んだことは数え切れません。そんな時は心から信頼できる人に相談していました。私の周りにいた人は私から全力でぶつかればそれに応えて全力でぶつかってくれる人たちばかりです。悩みがあればすぐに伝えていたし、私生活の事もよく話していました。

あとは、よく一緒に呑みに行き話を聞いてもらうことが多かったです。私は私なりの休憩場所を呑みに行くときや私生活の時間で作っていました。悩んでは話を聞いてもらってその悩みと向き合っ、次に何かしらの形でつなげていく。その繰り返しだったと思います。その悩みを共有できる仲間がいたことが一番の支えだったかなと思います。

学生ボランティアとして活動する学生の生の声をお届けします。

今回のインタビュー相手は、

田中 宏樹(たなか ひろき)
さんです!

どんな時も笑顔の彼にだって、悩むことはあるそうです。そんなとき彼はどのようにして立ち直っていたのでしょうか？



AFS 日本協会 東京学生部

学ボラ通信 2020年版 学ボラインタビュー編

発行:2020年6月



3.新入生に一言！

AFS学生ボランティアは生きるために必要なことでもなければ、やらなければ何かが失われるものでもないです。そんな嗜好品のようなものだからこそ、酸いも甘いも経験したことがきっとあなたに素敵な色を添えるはずです。

学生生活に、そしてあなたの人生に色を添えてみませんか？



1. 留学生とのエピソードはありますか？

僕、留学生を笑わせるのが好きで、
当時映画で流行っていた
フレディ・マーキュリーのモノマネを
皆の前で披露したんですけど、
そしたらすぐウケてくれて(笑)
それ以降色んな子が僕に会うたびに
「くろ！！あれやってよ！」ってめちゃくちゃ
笑顔で寄ってきてくれたんです。
言葉とか文化とか全然違う人同士だけど、
お互いに笑い合えるのってなんか
素敵だな~と思った瞬間でした。



AFS 日本協会東京学生部

学ボラ通信 2020年版 学ボラインタビュー編
発行:2020年6月

学生ボランティアとして実際に活動する学生の
生の声をお届けします。

今回のインタビュー相手は、

黒田 亘(くろだ わたる)さんです！

素敵な彼の笑顔の源は留学生との関わりにあ
るそうです。そんな可愛い留学生との
エピソードとは？



2. 学ボラを続けている理由は なんですか？

イベントに参加した人たちの喜ぶ顔と、
より良いものを目指して本気で考え抜いて
作りあげた先にある達成感が忘れられなくて。
それを何回でも体験したいなって思ったからです。
のめり込むうちに僕を支えてくれる学ボラ仲間も
増えて、気づいたら自分の大事な居場所の
一つになっていました(笑)

3. 新入生に一言お願いします！

AFSの魅力はなんと言っても「人」。数え切れないくらいの人と出会って、
その中で新しい発見があったり、考え方が変わったり、自分を見つめ直したり。
本当に沢山の刺激を受けながら成長できる、そして出会いに感謝してもっと人を好きになれる。
そんなアツク温かい場所です。社会に出る前の最後の時間、皆さんはどう過ごしますか？
興味のある人は是非、AFS東京学生部に一步踏み出してみてください！お待ちしております。





1.学ボラを一言で表すと なんですか？

一言で表すのは
すごい難しい！！笑笑
けど、やっぱり「うち」が一番近い
かなあとします。いろんなひとが、
いつでもいつまでもいていい場所。
それが「学生ボランティア」で、
その家にみんなで住んでいる、
って感じです。



2.学ボラ以外で取り組んでいることはありますか？

大学一年生の時は部活とボランティアとアルバイトと、もちろん学校も行って…
なんて生活してました！ちなみに言うと、これは僕が学ボラ以外の活動を1番が
んばっていた時期の話です。(楽しかったけど、おすすめでは無いかも？！笑)

三年生のときは春は支部のイベントの学生責任者、夏はキャンプとイベントを
こなしながら、キャンプ後中二日で留学のためアメリカへ。途中でいなくなっても
いつでも迎え入れてくれるから、余計なこと考えずにやりたいことに集中できるのが
学ボラの良いところですね。



3.新入生に一言お願いします！

やりたいことはなんでもできる！

それができるのが大学生活です。

だからこそ新しいことにチャレンジするもよし、

自分のやってきたものを続けてもよし。

過ごし方はいろいろあっていいと思います。

でも、だからこそ「真剣に」なにかに

取り組むことって、中々ないのかもしれない。

皆さんと素敵なイベントを作れたらいいな！

まっています！！

AFS 日本協会 東京学生部

学ボラ通信 2020年版 学ボラインタビュー編 発行:2020年6月

学生ボランティアとして実際に活動する学生の生の声をお届けします。

今回のインタビュー相手は、島地諒(しまじ りょう)さんです！

大学生はやりたいこともたくさん…何かを諦めるのではなく全部取り組んだ彼に直撃してみました。



1.あなたが学ボラをする上で大切にしていることはなんですか？

「自分の得意なことを発揮できる場所でボランティアをする」ということです。いろんなイベントがあるので、その中でも自分が100%輝ける役割や行動は何か、いつも考えています。例えば、私は絵を描くことが好きなのでTシャツのデザインの係をよくやらせてもらいました。国際分野に興味のある人だけでなく、料理が得意な人や運動が好きな人など活躍できる様々な場があります。ただボランティアをやるだけでなく、学ボラは自分がキラキラ輝ける場所だなと感じています。



2.学ボラをやめたいと思ったことはありますか？

辞めたいと思ったことはありません。
ただ、ある一定期間、他のボランティアや趣味に時間を使って、学ボラの活動を自主的に
おやすみしたときはありました。大学生は自由な時間がたくさんあるので、AFSの仲間との
世界だけでなく他の視点にも目を向けてみました！
でも、結局学ボラ4年間続けてますね(笑)

学生ボランティアとして実際に活動する学生の生の声をお届けします。
今回のインタビュー相手は、**中島 英(なかしま あき)**さんです！
キャンプ部で活躍する彼女、ちょっと派手な見た目とは裏腹に一本筋の通った彼女が
大切にしていることとは一体何なのでしょう？



3.新入生に一言お願いします！

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、おそらく皆さんが思い描いていた大学生活のスタートではない人も
いるかもしれません。でも、「何か大学生のうちにしたい」と考えていませんか？この時期を準備期間だと考
え、いつでも動き出せるように、ぜひAFSの学生ボランティアに興味を持っていただけると嬉しいです。
みなさんとボランティアができるのが楽しみです。お待ちしております！

AFS 日本協会 東京学生部

学ボラ通信 2020年版 学ボラインタビュー編 発行:2020年6月



1.あなたにとって学ボラとは？

挑戦できる場所。
今まで「挑戦」する事から逃げてきた私はAFSに入り、
皆AFSに真っ直ぐで、
一生懸命で、目標達成の為に努力を
惜しまない、そんな魅力ある方々のいる環境に
恵まれ、多くを学び、新しい自分に
出会えました。
振り返れば、AFSでの活動は
「挑戦」する事ばかりで、
失敗は成功の基のごとく、
失敗ばかりでしたが、その分
成長する事ができ、大学時代の
大切な財産となりました。



2.支部活動の魅力はなんですか？

人。
多摩支部では、多摩支部一本で
活動をする学生が多くいます。
部をまたぎ活動をする仲間も
多摩支部の活動に参加し、
多摩支部一本で活動をする仲間を見て
安心したという話を多く耳にします。
部会(ミーティング)が月に2回あり、
どうってことない話から、真剣な話まで
語り合える、私の大好きな場所です。
多摩支部一本で活動する学生が多い
理由の中の一つも、
これにあるのではないのでしょうか。



学生ボランティアとして実際に活動する学生の生の声をお届けします。
今回のインタビュー相手は、**岡地 美英(おかち みはな)**さんです！
学ボラたちには、一つの部で活躍する人や、色々な部を経験する人など様々。
東京多摩支部で活躍する彼女ならではの支部の魅力を聞いてきました！



AFS 日本協会 東京学生部

学ボラ通信 2020年版 学ボラインタビュー編 発行:2020年6月

3.新入生に一言お願いします！

新入生の皆さん、大学御入学おめでとうございます🌸
大学生活は自由な分、自分で取捨選択を迫られる機会が多くあります。
何もせず、ぼーっとしているとあっという間に過ぎていきます。
悩んだら、「とりあえずやってみよう」精神で、何事にも挑戦してみるのも
良いのではないのでしょうか。多種多彩な仲間が集うAFSで、
学生ボランティアとして一緒に挑戦できる日を楽しみにしています！



1.あなたが学ボラ生活で 大変だったことはなんですか？

学生ボランティアはボランティアという活動の性質上、何故熱意を傾けているのが理解されにくいという点です。僕は実家暮らしなので、親に「なんでそこまでやるの？」と言われたことは多くあります。また友達やバイト先にも説明が大変で何度説明しても何をやっているか、なぜ熱意を傾けているかを納得してもらえないことは何度もありました。学ボラ最優先で生活していた僕は、AFSが忙しくなり、外出や外泊が多くなってくると、親に心配をかけたことも怒られたこともありました。

でも、ボランティアは自己満足でいいと思っています。自分達の自己満足が誰かの人生を変えるかもしれない留学を支えているというのは利益や打算ではないと思っています。



2.学ボラのやりがいはなんですか？

やりがいは沢山あります。学ボラとして一緒に活動する仲間との交流や、新しい価値観との出会い、みんなで1つの目標に向かって頑張ること、ぶつかって悩むこと。でもやはり最高に「やってよかった」と感じる瞬間は、オリエンテーションや留学説明会の参加者から「ありがとう」と言われた時。

たった半日や数日で他人の人生を変えることは現実的には不可能だと思います。ですがその意気でイベントや留学説明会に臨み、参加者達の人生の一端を担えたと一瞬でも感じられる瞬間があるからこそ、なんだかんだこれまで続けていると思っています。

学生ボランティアとして実際に活動する学生の生の声をお届けします。今回のインタビュー相手は、

安藤 元(あんど う もとき)さんです！

楽しいだけでなく大変なこともあります。そこには必ずやりがいがあります。彼のやりがいを聞いてみました。



AFS 日本協会東京学生部

学ボラ通信 2020年版 学ボラインタビュー編

発行：2020年6月

3.新入生に一言お願いします！

AFS学生ボランティアはあくまで1つの選択肢です。学ボラをやること、そして、それを続けることが正解ではありません。ですが、もし興味があるのなら是非一度試してみてください。

ここには色々な人がいます。帰国生、帰国生の家族、友達の紹介。そんなバックグラウンドの違うみんなが同じ目標に向かって1つになれる場所です。もちろん、楽しいことばかりではありません。辛いことも悩むこともあります。時には辞めてしまいたくなることも。それでも僕はここで過ごした大学生活は自分の中で最高に誇らしいものでした。誇れる仲間と誇れる時間を共に過ごしてみてください。